

体育授業における「学習カード」の機能に関する研究

— 学習カードに対する教師のこだわりに着目して —

和田 華子 (東京学芸大学)

1. 目的

本研究の目的は、教師に対する意識調査を通して、教師が体育授業における学習カードの機能をどのように捉え、実際の体育授業においてどのように活用しているのかを明らかにすることである。

2. 研究方法

1) 対象者

東京都内の小学校6校、島根県内の小学校1校の教師計92名

2) 調査方法と内容

体育授業における学習カードの活用に関する実態や意識を問う質問項目を、4件法及び選択技法、自由回答法によって構成し、質問紙調査法を用いた。

3) 分析方法

SPSS24 統計パッケージを使用し因子分析（主因子法・Promax 斜交回転）を行い、抽出された因子について教師の属性ごとに2群間はt検定、3群間は一元配置分散分析を行った。

3. 結果と考察

1) 因子分析の結果、教師が捉える学習カードの機能は「『思考力・判断力・表現力等』の育成」「『学びに向かう力』の見取り」「技能習得過程の把握」「個に応じた指導」という4つに分類することができた。これらの機能は運動についての「思考・判断」「関心・意欲・態度」「技能」の3つの観点と対応しており、教師が学習カードを体育授業において指導と評価を一体化する手立ての一つとして捉えていることが明らかになった。

2) 学習カード活用時のこだわりに関する自由記述のカテゴリ分けの結果から、学習カードを活用する際の教師の意識は「児童理解に基づいた学習評価」「学習カードをもとにした効果的な学習指導」「学習カードの工夫」の3つに

向けられていることが明らかになった。

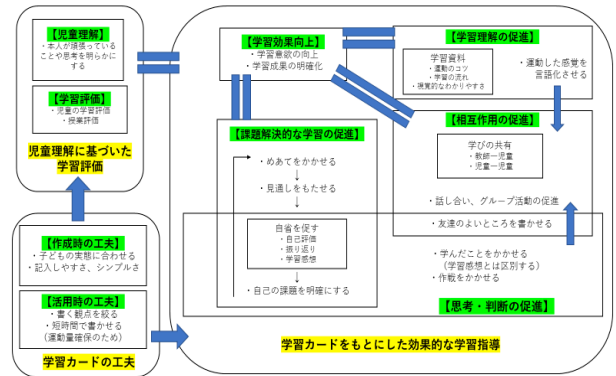


図1 教師の学習カードに対するこだわり

4. 結論

本研究では、学習カードの機能が「思考・判断」「関心・意欲・態度」「技能」の3つの観点について指導と評価の一体化を行うものであり、さらに個に応じた指導を行うための手立てとして捉えられていることが明らかになった。さらに、その機能が果たされるように、教師が学習評価と学習指導それぞれの場面において、こだわりをもって学習カードを活用していることが明らかになった。

学習カードの作成方法や、学習カードに設定する項目によって、それぞれの教師が重視する学習カードの機能が異なっており、さらに学習カードの機能の捉え方や形式は教師の体育授業そのものに対する思い、児童の実態や学習する運動領域によって様々であった。このことから実際に教師が体育授業において活用している学習カードは、それぞれの教師の体育授業に対するこだわりやねらいを具現化したものであるということが出来る。

5. 主な参考文献

- 1) 日景奈美・福岡雄二・田村光司・後藤健人(2004), 主体的な学習活動を促す体育・保健体育科の授業改善—自己評価活動を生かした学習カード・ノートの活用を通して—, 川崎市総合教育センター, 研究紀要第18号, pp95-110.

